

ABP Admissions (Annual Report (2nd semester, 2019-1st semester, 2020) VIII Asia Bridge Program)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 原, 芳久 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00028207

ABP入試

原 芳久

1. 特 長

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1) 母国での受験が可能<ul style="list-style-type: none">• オンラインによる出願手続き• 現地で実施されるEJUおよび英語資格試験を活用• オンライン面接の実施2) 入学検定料不徴収 |
|--|

ABP入試は、社会の変革を担うイノベーション人材として成長し、グローバルに活躍できるための知識及び技能、コミュニケーション能力、積極的に学ぶ意欲を備えた学生の選抜を目的として実施されているが、その最大の特長は、出願から合格発表までのすべての手続きを受験者が母国にいながら進められることである。オンライン出願システムの活用により郵送中の出願書類の紛失や遅配などの不安を解消するとともに、受験票や合否判定結果の受取りも即時かつ確実に行えるしくみが確立している。入試管理者側も各受験者の出願手続きをリアルタイムで確認できることから、必要に応じた支援の手を適時に差し伸べることが可能となっている。またオンライン面接は、面接試験会場までの移動に伴う受験者の時間的、経済的な負担を軽減するばかりでなく、新型コロナのような感染症予防のとりくみとしても有効であると考えている。

2. 概 要

ABP入試は2015年度に開始され、毎年、通常の募集（11月出願、3月合格発表）及びこの入試で募集人員を満たさない場合に行う第2次募集（6月出願、8月合格発表）の2度の入試を実施してきた。開始間もない2015、2016年度においては、出願要件である日本留学試験（以下、EJU）の受験者が少ないことに配慮し、EJU未受験者及びEJUの成績要件に満たない者に対して代替試験を行った。代替試験は、過去のEJUを参考にABP入試独自の試験問題を作成し、教職員が対象4か国（インド、インドネシア、タイ、ベトナム）に出向いて実施した。この2年間のとりくみによりABP入試にはEJUが必要であることが広く知られ、また同時期に現地におけるEJU受験者数も大きく伸びてきたことから、2017年度には代替試験を廃止した。これにより、代替試験の作成及び教職員の手による現地入試の実施も不要となった。

その後、官公庁や企業に籍を置きながら就学するしくみを取り入れたり（2017年度）、第一次選抜の「基準」としていた日本語能力を「目安」としたり（2019年度）、また新たにミャンマーを対象国に加える（2019年度）などのとりくみを通して、優秀な人材を幅広く募る工夫を続けている。

3. 当該期間の入試実績

令和二年度学士課程入試 第1次募集（2019年11月出願） (人)

志望先別集計	学 部	出願者	第一次合格者	第二次合格者
	人文社会科学部	37	22	8
	教育学部	0	0	0
	情報学部	11	9	4
	理学部	1	0	0
	工学部	14	10	6
	農学部	4	1	0
		67	42	18

※オンライン出願サイトへの登録者は140人。

出身国別集計	学 部	出願者	第一次合格者	第二次合格者
	インド	0	0	0
	インドネシア	9	3	3
	タイ	2	1	0
	ベトナム	54	38	15
	ミャンマー	2	0	0
		67	42	18

令和二年度学士課程入試 第2次募集（2020年6月出願） (人)

志望先別集計	学 部	出願者	第一次合格者	第二次合格者
	人文社会科学部	—	—	—
	教育学部	—	—	—
	情報学部	—	—	—
	理学部	4	3	2
	工学部	—	—	—
	農学部	3	0	0
	合計	7	3	2

※オンライン出願サイトへの登録者は12人。

出身国別集計	学 部	出願者	第一次合格者	第二次合格者
	インド	0	0	0
	インドネシア	0	0	0
	タイ	1	1	0
	ベトナム	6	2	2
	ミャンマー	0	0	0
	合計	7	3	2

※人文社会科学部、教育学部、情報学部、工学部は入試を実施せず

令和二年度修士課程入試（2020年3月出願）

(人)

志望先別集計	専攻	出願者	第一次合格者	第二次合格者
	情報学専攻	23	17	9
	理学専攻	9	9	9
	工学専攻	50	33	27
	農学専攻	10	8	8
	合計	92	67	53

※オンライン出願サイトへの登録者は224人。

出身国別集計	学部	出願者	第一次合格者	第二次合格者
	スリランカ	4	4	1
	ネパール	3	3	2
	インド	20	12	12
	タイ	3	3	3
	ラオス	0	0	0
	マレーシア	0	0	0
	モンゴル	1	0	0
	バングラデシュ	30	24	17
	中国	3	2	2
	インドネシア	18	13	12
	韓国	0	0	0
	シンガポール	0	0	0
	フィリピン	1	0	0
	ミャンマー	1	1	1
	ベトナム	4	1	0
	台湾	2	2	1
	ABP対象外*	2	2	2
合計	92	67	53	

* スーダン共和国およびトルコ共和国からの出願者

4. 前年度入試からの改善点

令和二年度修士課程入試（2020年5月末～6月初旬に面接）においては、全国における新型コロナウイルス感染者数が大きく減少してきた（5月25日に全都道府県で緊急事態宣言が解除された）時期ではあったが、面接試験を担当する教職員間の感染リスクを軽減するため、面接試験員が個々の端末からオンライン面接を実施できるZoomを導入した（Skypeでは一台の端末を試験員全員で利用している）。

令和二年度学士入試第2次募集（2020年8月に面接）においては、公共交通機関を長時間利用する面接試験受験者の新型コロナへの感染リスクを軽減するため、すべての面接試験を急遽オンライン面接に切り替えたが、大きな混乱もなく円滑に運営ができたことは今後の運営に向けて入試担当者の大きな自信となった。